



TITLE:

京大広報 No. 536

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 536. 京大広報 1999, 536: 705-720

ISSUE DATE:

1999-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/196575>

RIGHT:



京大広報

No. 536

1999.6



京都大学ホームページ 関連記事本文713ページ

目次

大学の動き

テルアビブ大学との学術交流706

奥田 東元総長の逝去706

栄誉

米山俊直名誉教授, 乾 智行名誉教授,
佐藤文隆理学研究科教授が紫綬褒章を受章 ...707

山田康之名誉教授が米国科学アカデミー
外国人会員に選ばれる709

日誌709

訃報710

紹介

医学部附属病院臓器移植医療部711

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>(京大ホームページ)...713

資料

平成11年度京都大学職員研修実施計画715

公開講座

工学部公開講座

「私たちのくらしと工学」 安全と安心 ...716

理学研究科数学教室公開講座

「現代数学展望」717

数理解析研究所数学入門公開講座718

農学研究科附属演習林公開講座

「森のしくみと働き」

芦生演習林への招待719

話題

クラブ紹介 アーチェリー(洋弓)部720

京都大学広報委員会

大学の動き

テルアビブ大学との学術交流

本学とイスラエル国のテルアビブ大学は、大学間学術交流協定の締結について協議を重ねてきたが、このたび両大学の教育・研究の交流と協力を推進するための「学術交流に関する一般的覚書」を交換することとなった。

「覚書」は、平成11年4月23日に本学において、長尾 真総長、テルアビブ大学ヨラム・ディンシュタイン総長が署名し、交換された。

テルアビブ大学は、1956年創立の私立大学であり、人文科学、社会科学、経営学、法学、生命科学、精密科学、工学、医学及び芸術等の学部を有するイスラエル国を代表する総合大学の一つである。

なお、テルアビブ大学の教員数は約1,800人、学生数は約26,000人である。



奥田 東元総長の逝去



奥田 東元総長は、かねて病氣療養中のところ、平成11年4月28日午後8時16分逝去された。享年93。

先生は、昭和4年に京都帝国大学農学部農林化学科を卒業され、農林省農事試験場技師を経て、同15年京都帝国大学農学部農芸化学科助教授に就任、同22年に同教授となり、農芸化学第三講座を担当された。その後昭和36年より農学部長に任ぜられた後、同38年には第17代の京都大学総長に選出され、同44年12月まで2期6年にわたって、学園紛争期の困難な大学の管理・運営に尽力された。また、この間の昭和43年に国立大学協会会長となり、わが国の大学行政に多大な貢献をされた。総長退任後の昭和44年に京都大学名誉教授の称号を受けられた。

先生は、農芸化学の分野において放射性同位元素の利用に関する研究、肥料および植物栄養学に関する研究、窒素固定微生物に関する研究で数々の輝かしい業績を挙げられた。いずれも新しい分野の開拓、研究方法の創案であり、その後の研究の発展に大きく貢献した。

これらの業績により、先生は昭和38年に日本農学

賞ならびに読売農学賞を受賞され、同50年11月には勲一等瑞宝章を受章された。

本学退官後は、関西国際空港調査会理事長を務め、同空港の完成に尽力された。また関西文化学術研究都市推進協議会会長などの要職を歴任、特色ある学術都市創設に尽力され、国際高等研究所理事として研究所の創設・運営に大いに貢献された。

以上のような輝かしい研究業績とわが国の学術振興および文化の発展における功績と指導的活躍により、平成8年度の文化功労者に選ばれた。

なお、告別式は、平成11年4月30日（金）に相国寺（京都市上京区）で執り行われた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

栄誉

米山俊直名誉教授、乾 智行名誉教授、佐藤文隆理学研究科教授が紫綬褒章を受章

我が国学術の向上発展のため顕著な功績を挙げたことにより、米山俊直名誉教授、乾 智行名誉教授、佐藤文隆理学研究科教授が、平成11年4月29日に紫綬褒章を受章された。

以下に各氏の略歴、業績等を紹介する。



米山俊直名誉教授は、昭和29年三重大学農学部農学科卒業、同31年京都大学大学院農学研究科修士課程修了、博士課程に進学の後渡米し、同年イリノイ大学社会人類学部大学院研究助手に採用された。昭和35年

京都大学に復学し、同36年京都大学大学院農学研究科博士課程を単位取得退学、同年京都大学農学部助手、同40年甲南大学文学部助教授、同46年京都大学教養部助教授、同56年同教授昇任、平成4年総合人間学部教授となり、国際文化学科文化構造論講座を担当した。平成6年停年により退官し、京都大学名誉教授の称号が授与された。本学退官後は放送大学教授、平成9年から大手前女子大学長の職に就き、大学教育に尽力し今日に至っている。

同名誉教授は、日本の農村調査から出発し、過疎化していく農村社会を文化人類学的視点から照射していくとともに、多年にわたりアフリカのタンザニア、マリ、ザイール（現コンゴ民主共和国）における農村社会の調査に従事し、農耕民の世界観や価値体系を浮き彫りにするとともに、日本のアフリカ研究の発展に尽くした。

一方、祇園祭や天神祭をはじめとする都市の祭礼

に関する文化人類学的研究に着目し、日本における都市人類学を体系的に構築した。さらに同名誉教授は、はやい時代から生活史（ライフ・ヒストリー）の聞き取りという、個人の生活史を通じて地域の社会や文化を解明していく研究方法を日本社会に導入することにより、一人一人の生き方をふまえた社会の特性を明らかにしていく一方、日本文化の単位として小盆地を指摘し、「小盆地宇宙論」をはじめとする独自の文明論を展開していった。なかでも、同名誉教授が提唱した「社縁」という概念は、血縁、地縁と鼎立する重要な概念として、国際的にも注目を集めている。

これらの業績に対して、昭和61年日本生活学会の今 和次郎賞、平成5年京都新聞文化賞が授与された。また、日本学術会議第16期会員に選出されたのはじめ、日本民族学会、日本アフリカ学会等の会員として学術ならびに斯学の発展に寄与した。京都大学においては、アフリカ地域研究センターの創設や総合人間学部の文化人類学分野確立に尽力するとともに、若手研究者の育成に多大な貢献をなした。また、優れた学識と豊富な経験により地域文化の振興にも尽力している。

（総合人間学部）



乾 智行名誉教授は、昭和32年京都大学工学部燃料化学科を卒業、同37年同大学大学院工学研究科博士課程燃料化学専攻を単位修得退学、同年京都大学工学部助手となり、助教授を経て、同58年教授に就任、

石油化学科触媒工学講座を担当した。工学部の改組

により大学院工学研究科に配置換えとなり、物質エネルギー化学専攻触媒科学講座触媒設計工学分野を担当した。平成10年に停年により退官し、京都大学名誉教授の称号を授与された。本学退官後は、大同ほくさん株式会社最高顧問・ガス化学研究所所長として今日に至っている。

同名誉教授は、本学在任中、学内では、工学部附属重質炭素資源転換工学実験施設教授を兼任し、学

外では、東京工業大学理工学部国際交流センター教授をはじめ、通商産業省産業技術審議会臨時委員、文部省学術審議会専門委員、日本学術会議化学工学研究連絡委員会委員などを兼務した。

同名誉教授は、触媒反応における非定常現象の解明とその制御に力を注ぎ、これが、超高速反応・大量変換・希薄成分の反応・抑制作用下の反応・超高純度精製等の諸反応の問題解決に共通の指導原理を与えることを、多くの例で実証し国際的に大きな影響を与えた。なかでも、高速触媒反応研究の開拓者として、自己振動反応の理論的解明を行い、さらに、天然ガスを超高速で水素や合成ガスに変換する触媒、一酸化炭素や二酸化炭素の水素化によりメタン、メタノール等を合成する触媒など多くの反応に新し

い高速高性能触媒を開発した。また、ディーゼル排気等に含まれる窒素酸化物の除去に関して、微視的連続反応機構を提唱し、酸素大過剰条件下での微量窒素酸化物の触媒除去を実現してこの分野の端緒を開いた。さらに、迅速結晶化法を開発して種々のミクロ多孔性結晶を合成し、それらを触媒に用いて、メタノールからエチレンを、パラフィンから芳香族化合物を高選択的に合成する方法等を開発した。

これら一連の研究業績に対し、日本化学会、触媒学会、日本エネルギー学会および石油学会からそれぞれ学会賞が授与され、特に触媒学会からは永年にわたる顕著な功勞に対し触媒学会名誉賞が授与された。

(大学院工学研究科)



佐藤文隆教授は、昭和35年京都大学理学部物理学科卒業、同年同大学院に進学、同39年理学部助手、同45年講師、同46年基礎物理学研究所助教授、同49年教授、同60年から理学部教授となり、平成7年には大学院

理学研究科教授に配置換えられ、宇宙放射学講座を担当し、現在に至っている。この間、昭和51年から同55年まで基礎物理学研究所長、平成2年から同4年まで評議員、同5年から同7年まで理学部長および大学院理学研究科長を歴任した。

同教授は、宇宙物理学の広範な分野において、顕著な業績をあげている。一般相対性理論の理論的研究、銀河などの天文学的な構造の形成と素粒子論的な宇宙の創成に関する両面からのアプローチによる宇宙論の研究、さらには高エネルギー天文学の分野でも、宇宙線の起源や加速の問題、超新星からのガンマ線放射などの研究を行うなど、その活動は非常に多岐にわたり、いずれの分野においても輝かしい先駆的な業績である。

とりわけ、一般相対性理論の研究で、その基礎方程式であるアインシュタイン方程式の新たな厳密解、富松 佐藤解を発見したことは、顕著な業績とされている。また、宇宙論の分野では、火の玉宇

宙モデルの発展の段階において、多くの先駆的、かつ独創的な研究を行い、このビッグバンモデルが標準モデルとなるに至るまでに、大きな寄与をした。例えば、火の玉宇宙が冷えていく際における元素の合成、水素原子やヘリウム原子の形成過程、また銀河等、宇宙の構造の形成についての研究があげられる。

これらの業績に対して、昭和48年仁科記念賞、同50年松永賞、同60年朝日学術奨励金、同年国際重力論文賞が授与された。

また、同教授は国内においては、高エネルギー物理学研究所評議員、宇宙線研究所運営委員、国立天文台評議員、素粒子原子核研究所評議員、宇宙科学研究所評議員、日本学術会議天文学研究連絡委員会委員、同物理学研究連絡委員会委員、日本天文学会評議員、学術審議会専門委員などを歴任し、平成10年9月から日本物理学会副会長の要職にある。さらに、国際的にも、カリフォルニア大学客員教授、一般相対論重力国際学会委員、国際純粋応用物理学連合・宇宙物理専門委員会委員、同議長、マーセルグロスマン国際諮問委員等を歴任している。

(大学院理学研究科)

山田康之名誉教授が米国科学アカデミー外国人会員に選ばれる



山田康之名誉教授が、1999年4月27日付けで米国科学アカデミーの外国人会員に選ばれた。

米国科学アカデミーとは、1863年当時のリンカーン大統領によって設立が承認された米国の公認された民間科学諮問

機関であり、その会員に選ばれることは米国の科学者・技術者にとって最大の名誉とされている。現在、米国会員1825名、選挙権を持たない外国人会員313名が選出されている。

以下に同氏の略歴、業績等を紹介する。

山田康之名誉教授は、昭和32年京都大学農学部農芸化学科卒業、同35年農学部助手、同37年から同40年米国ミシガン州立大学フルブライト研究員を経て、同42年農学部助教授、同57年同学部附属生物細胞生産制御実験センター教授、平成2年同学部農芸化学科教授、同6年奈良先端科学技術大学院大学教授を併任した。平成6年10月本学を退官し、京都大学名誉教授の称号を授与された。平成6年11月奈良先端科学技術大学院大学教授に就任、同7年日本学士院会員、同9年奈良先端科学技術大学院大学長となり、現在に至っている。

同名誉教授は、植物科学において重要な位置をしめる植物細胞機能の生化学・分子細胞生物学研究分野において数多くの独創的な研究業績を挙げ、この分野の学術の進歩・発展に尽くされたが、特に、「植物培養細胞における機能発現並びに物質産生機構の解析」に関する研究は、国際的に高く評価されている。すなわち、植物培養細胞における二次代謝

産物産生機能のモザイク性を認め細胞選抜により高生産細胞株を育成し、有用代謝産物を大量生産するための基盤を確立するとともに、これらの物質の産生機構を解明した。特にトロパンアルカロイド、スコポラミン生合成にかかわる主要酸素の分離・精製と生化学的・分子生物学的解析、及びベンジルイソキノリンアルカロイドであるベルベリン並びにビスベンジルイソキノリンアルカロイドのアロモリンの大量産生株の確立と生合成変換過程の解明により、薬用植物の分子育種への道を拓いた。また、イネ培養細胞あるいはプロトプラストからの個体再生の成功、さらに本手法を応用した雑種イネ作出の基盤的技術の確立や、光独立栄養細胞を用いた光合成機能発現の解析、葉緑体変異株の作成とその解析等、数多くの植物機能の解明に貢献した。また、数多くの国際会議を企画・実施するとともに、日本学術振興会日米ならびに日独科学協力委員会専門委員、また日本ユネスコ国内委員会委員としてもこの分野の科学技術の国際交流に尽力された。

これらの業績に対し、島津賞ならびに日本農芸化学会賞（昭和62年）、スウェーデンウプサラ大学名誉博士（平成元年）、日本学士院賞（平成3年）を授与され、また、英国国際バイオテクノロジー研究所フェロー（平成4年）、スウェーデン王立科学会外国人会員（平成6年）でもある。

（大学院農学研究科）

日誌 1999.4.1 ~ 4.30

- 4月2日 フランス共和国 大学評価全国委員会(CNE)
André STAROPOLI 前事務総長来学、
総長及び関係教官と懇談
- 6日 名誉教授称号授与式
" 退官教授懇談会
- 7日 医療技術短期大学部入学式

- 9日 学部入学式
" 大学院入学式
- 14日 発明審議委員会
- 16日 カナダ モントリオール大学 Robert LA-CROIX 大学長他3名来学、総長及び関係教官と懇談

16日 同和・人権問題委員会
 19日 大学院生命科学研究科入学式
 21日 国際交流委員会
 " 国際交流会館委員会
 22日 スウェーデン王国 ストックホルム大学
 ビジネス・スクール Sikander KHAN 学
 長他 5 名来学，総長及び関係教官と懇談

23日 イスラエル国 テルアビブ大学 Yoram
 DINSTEIN 総長他 7 名来学，「学术交流
 に関する覚書」の交換並びに総長及び関
 係教官と懇談
 27日 評議会
 " 教育課程委員会
 28日 環境保全委員会

訃報

梅園 和彦 大学院生命科学研究科教授



大学院生命科学研究科教授梅園和彦先生は，平成11年4月12日逝去された。享年40。

先生は，昭和56年京都大学理学部卒業，同大学院理学研究科修士課程，博士課程修了後，アメリカ合衆国ソーグ生物学研究所（客員研究員・主任研究員），奈良先端科学技術大学院大学助教授を経て，平成9年京都大学ウイルス研究所教授に就任，本年4月大学院生命科学研究科設置に伴い同教授に移られた。

先生は，世界で初めてゼニゴケ葉緑体ゲノムの全塩基配列を決定し，近年盛んになっているゲノム科学の先鞭となる成果を残された。その後，分子生物学的手法により高次生命現象，特にビタミン・脂溶性ホルモンによる遺伝子発現調節機構の研究でビタミン・ホルモンの受容体かつ転写因子である核内受容体群が，標的遺伝子をどのように認識・活性化するかの基本原則を解明するなど転写調節因子研究の第一人者として多大な業績を残された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

（大学院生命科学研究科）

山田 彦兒 名誉教授



本学名誉教授山田彦兒先生は，平成11年4月24日逝去された。享年92。

先生は昭和5年京都帝国大学理学部物理学科を卒業，同大学理学部副手，神戸高等商船学校講師，同教授，九州帝国大学助教授を経て，同22年同教授に就任，昭和35年京都大学工学部教授に配置換えになり，数理工学応用力学講座を担当された。

昭和45年停年により退官され，京都大学名誉教授の称号を受けられた。本学退官後は，昭和45年から

同55年まで中部工業大学工学部教授を務められた。

先生は応用力学，なかでも流体力学に関する研究において優れた研究業績を残され，その発展に寄与されるとともに，境界層や沿岸域における水理現象の分野において多大の貢献をされた。

これら一連の活動により，昭和52年4月勲二等瑞宝章を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

（大学院工学研究科）

清水 彊 名誉教授



本学名誉教授清水 彊先生は、平成11年4月24日逝去された。享年88。

先生は、昭和9年東京帝国大学理学部天文学科を卒業後、同大学助手、建設院地理調査所技術養成所長などを経て、同32年京都大学理学部教授に就任し、宇宙物理学第二講座を担当された。昭和49年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。

本学退官後は、昭和49年から同58年まで仏教大学教授を務められた。

先生は、恒星天文学の研究を専門とされ、早期型星の水素吸収線の測光で先駆的な研究を行い、恒星系の運動学的・力学的研究においては、太陽近傍での早期型星と晩期型星の運動の差異を発見され、恒星の速度分散と緩和時間を関係づける力の研究で成果をあげられた。

先生はまた、我が国における大型シュミット望遠鏡の製作に尽力された。この望遠鏡は現在でも活躍している。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(大学院理学研究科)

紹介

医学部附属病院臓器移植医療部

臓器移植医療は欧米においては1980年代に一般の医療として確立され、その後急速に普及し発展してきている医療である。一方、わが国では強い社会からの要請に応えて1997年10月に臓器移植法が施行され、国家的プロジェクトとして、オープン・フェアー・ベストを目指した臓器移植医療の基盤整備がされつつある。現時点（1999年5月13日）で、脳死者からの心臓移植が2例、肝臓移植が1例行われ、まだまだ臓器移植治療の普及にはほど遠いが、今まで足踏み状態にあった脳死移植は、今後、確実に進展していく21世紀の医療といえる。

京都大学医学部附属病院では1990年から生体肝移植治療を開始してきたが、現時点で症例数は466例となり、わが国の症例数の約1/2、世界の症例数の約1/3を行ってきており、また、各国の施設との共同研究も進んで、世界的なリーダーシップを担っている。さらに、生体肝移植は週2回の定期手術を含む日常の医療として定着してきている。生体肝移植治療を含めて臓器移植医療がこれまでの医療と異なる点は、臓器の置換のために臓器の提供が必要であることと、自分以外の臓器を受け入れるのに必要な

免疫抑制療法が欠かせないことである。この二つの課題は全ての臓器移植に共通であるとともに、移植成績向上のためには移植技術よりもさらに重要である。これからの臓器移植治療を円滑に推進していくためには、各臓器に共通する免疫抑制療法の調節、感染症対策を中心とする組織的な患者管理、移植のための医療機器の運用と管理、拒絶反応診断のための病理組織の作成と診断が行えるチームとともに、患者および家族の精神面でのケアを行う移植コーディネーター職など、現行の医療ではカバーできていない新たな総合的な組織が必要であると考えられてきた。本院は、臓器移植法に基づく脳死体からの肝臓と肺移植の実施施設として認定され、わが国の臓器移植医療推進について重い責任を担うとともに社会の期待も大きい。そのため本院では、さらに脳死移植実施施設として選定されている肝臓や肺は無論、心臓、小腸および膵臓についても早期に移植が実現するように積極的に推進していくものであり、今後、肝・腎の生体移植とともに、関与していく臓器移植医療の領域は確実に拡大していくこととなる。

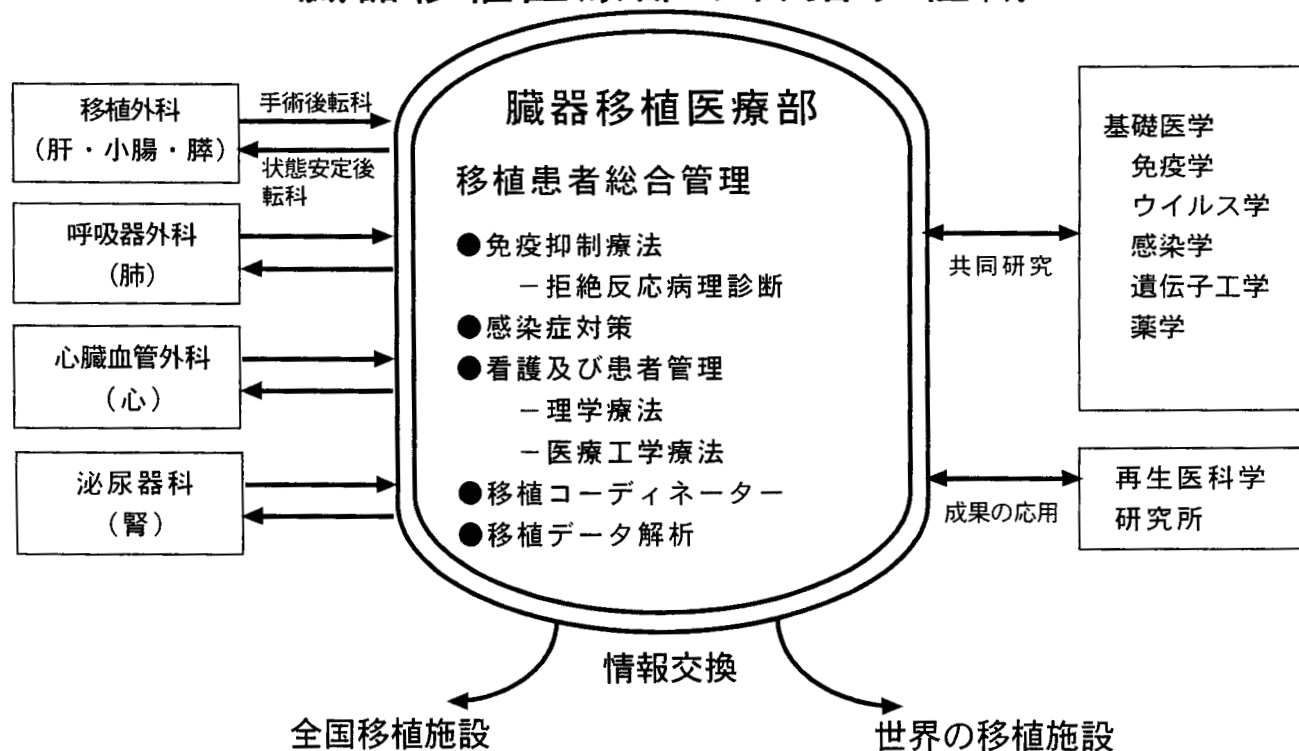
今後、本院での臓器移植医療を総合的、効率的に推進するために、臓器移植関係各診療科と協力して患者を集中的に専門家集団で管理し、臓器の境界を超えて機能する組織が是非とも必要であると考え文部省に要求していたが、平成11年4月に臓器移植医療部が設置された。2年度にわたって構築していく予定で本年度に認められたのは、移植外科助教授、病理医助手、移植コーディネーター、看護婦、輸血部技官が各1名である。

臓器移植医療部の目指す組織は心臓血管外科での心臓移植、呼吸器外科での肺移植、泌尿器科での腎移植、移植外科での肝・小腸・膵移植後に各科と協力して患者を集中的に専門集団で管理した上で、患者の安定をもって各科へ転科できる移植医療体制の構築であり、次の項目を確立させる必要がある。

- ① 薬剤師との協力による血中モニタリングに基づく免疫抑制療法
- ② 病理医と一体となった拒絶反応を中心とする各移植臓器障害の組織診断
- ③ 各科の専門医による感染症管理
- ④ ドナーとレシピエント間の組織適合検査
- ⑤ 血液浄化処置や人工呼吸器管理を含めた専門的な看護
- ⑥ 患者と家族の精神面も含めたケアを行う移植コーディネーター職

さらに、今後の移植医療を発展させるためには免疫学、ウイルス学、感染学、遺伝子工学、薬学など基礎医学部門、および人工臓器の開発など再生医科学研究との共同研究が欠かせない。(図参照)

臓器移植医療部の目指す組織



臓器移植医療部の設置は本院での移植医療の発展のみに止まらず、今後わが国が整備していかなければならない移植実施施設の確立のために、他の移植実施施設に対してインターネット等の画像解析転送システムを介して技術提供など指導的役割を担って

いけることとなり、わが国の臓器移植医療の発展に大きく貢献するものと確信する。さらには、新しい創造性に満ちた移植医療を推進し、京都大学が世界に向けての発信基地となると期待される。

(医学部附属病院)

<http://www.kyoto-u.ac.jp/> (京大ホームページ)

京都大学は、教職員・学生のみならず、一般の市民の方々に向けて、ホームページを通して多くの情報を提供しています。学部や研究所やセンターといった部局の紹介とか、カリキュラムの説明とか、研究成果の報告とか、盛りだくさんの内容が、それぞれ趣向を凝らして、ホームページ上に作成されています。現在、「kyoto-u.ac.jp」という名のつくホームページは、5万ページにものぼると思われます。

このような多量の情報から、いかにして、探している情報をタイムリーに得るかということは、決して易しいことではありません。一方、多くのピラを掲示板にはり、回覧を依頼し、ホームページで知らせても、口コミやPRの結果と余り差がなかったということを、経験された方もあるでしょう。不特定多数への情報の伝達は、様々な手段ができて、生易しいことではありません。

電子化された冊子ともいえるホームページでは、探している情報を見つけ易くする工夫が、いくつかなされています。

一つ目の解決として、大きな項目から、順次、細かな項目へとリンクをたどっていく方法です。何階層もの目次と、詳細な索引があり、求める情報に辿りつき易くなっていると、想像してもらえば、当たらずとも遠からずといえましょう。

二つ目の解決としては、単語による全文検索です。指定された単語が含まれるホームページを探させて、該当するホームページをリストアップさせます。その中から、どれが求めるものかは、人間が判断することになります。単語は、辞書にある単語でなくてその一部でも構わないし、複数指定しても構いません。

京都大学のホームページは階層化されています。その先頭となるトップページは、表紙の写真のようになっています。以前は、部局などの名称だけが並べられていましたが、平成10年6月18日に、京都大学のロゴマークの右側に、8個のボタンが付けられ、同11年2月4日に検索機能ボタンが追加されました。また、同日から、英語版も、改訂されました。

京都大学を広く知ってもらうために、京都大学を紹介する冊子やパンフレットが発刊されています。

しかし、全国に十分な部数を配布するとなると、経費と労力の点で、極めて難しくなります。ホームページで補う場合にも、紙の冊子の場合と同様に、部局毎よりも全学的にまとめてということで、「京大の紹介」と「広報・刊行物」というボタンが用意されています。

次に、部局が全学に向けて掲示をしたい場合、ホームページを作成しただけでは、十分といえません。所属する部局の掲示板は、2日に1度とか、頻繁に見に行くでしょうが、約50ほどある他の部局の掲示板までを覗きに行くことはめったにないでしょう。そこで、「学内掲示板」というボタンを設けて、掲示板の目次(インデックス)を作成しています。このページを見れば、すべての部局が全学的に知らせたいことは何か、一目瞭然でわかんと考えています。とはいっても、目次の作成は、各部局のホームページ運用責任者からの依頼によって、広報調査課の職員が作業していますから、運用責任者の協力が不可欠です。なお、このページは、学内のコンピュータからのみアクセスできます。

「公開講座」は、学外の一般の方々にもお知らせしたい掲示板です。公開講座、研究会、シンポジウムなどの掲示が、該当します。このボタンの目的は、先程と同じです。もちろん学外からでもアクセスできます。一般の方々が抱くもう一つの大きな期待として、入試に関する情報があります。現在、「入学案内(準備中)」となっているように、近いうちに、用意が整うと聞いています。

今まで説明してきたように、ホームページ自体は、それぞれの部局で作成していただきますが、トピックス的な情報が、皆さんの目に触れ易いように、全学的なインデックスを設けています。それぞれがどのようになっているかは、ホームページを覗いてみてください。百聞は一見にしかずです。現在では、学報に載ってもホームページがない、ホームページがあってもリンクの通知をしていないなど、利用が少ない状況です。是非、もっともっと利用してください。

「検索機能」ボタンは、単語を指定して該当するページを列挙する機能が呼び出されます。現在は、

附属図書館のシステムを使用しています。これも、一度使ってみてください。

どのようなトップページを設け、どのようなインデックスを構成していくかを、実際の、技術的なレベルで検討しているのが、広報委員会のホームページ専門委員会で、作成作業は広報調査課が、技術支援は大型計算機センターが行っています。

ホームページは、情報発信だといわれることがありますが、放送のように、積極的に情報を発信しているわけではありません。京都大学のある情報を得たいという人が、インターネットでアクセスしてきて、5万近いページから目的のページに到達できる

でしょうか。反対に、是非知ってもらいたい情報が、目に付き易くなっているでしょうか。京都大学のよう大きな組織では、最適な検索方法や、ページの配置や構造を求めることはなかなか容易ではありません。本委員会は一步一步前進をするように努力を重ねています。

最後になりましたが、京都大学ホームページ運用指針にも述べていますように、京都大学が教育や研究に有益な学術情報を提供できることを祈っています。

(ホームページ専門委員会委員長 金澤 正憲(大型計算機センター教授))

附録 京都大学ホームページ運用指針(平成9年10月27日 京都大学ホームページ専門委員会制定)

(目的)

1. 京都大学ホームページ(以下「京大ページ」という。)の円滑な運用を図るため、この指針を定めます。

(京大ページ)

2. 京大ページは、トップページとそれにリンクする各部局、事務局及び附属図書館(以下「各部局」という。)が作成したホームページ(以下「部局ページ」という。)で構成されます。部局ページは、「kyoto-u.ac.jp」のドメイン名を持つことになります。

(専門委員会)

3. 京都大学ホームページ専門委員会(以下「専門委員会」という。)は、京大ページのトップページの維持・管理を行います。部局ページから京大ページのトップページにリンクするときは、専門委員会委員長へ電子メール(webmaster@www.adm.kyoto-u.ac.jp)により、届け出てください。

(運用責任者)

4. 部局ページの円滑な運用を図るため、各部局毎にホームページの運用責任者を1名置いてください。運用責任者は、専門委員会との連絡調整にあたるものとします。

(掲載者)

5. 京大ページの各記事の掲載者(以下「掲載者」という。)は、掲載日及び掲載者の氏名又は連絡先を明示してください。なお、掲載者はその掲載記事の内容を常に最新の状態に保つよう努めてください。

(共通WWWサーバ)

6. WWWサーバを置かない部局等は、共通WWWサーバ(総務部広報調査課に置く。)に部局ページを作成することができます。共通WWWサーバ利用の方法については別に定めます。

(公序良俗に反する記事等の禁止)

7. 京大ページへの記事の掲載は、研究・教育活動を支援する学術情報ネットワークの目的に沿ったものに限ります。例えば、公序良俗に反するもの、商業的行為や政治・宗教活動等を目的とするものは禁止します。

(改善勧告)

8. 京大ページに掲載された記事の内容が、前項に反するものと専門委員会が判断したときは、専門委員会はその記事の掲載者及びその個所の運用責任者に対し、改善の勧告を行います。また、公序良俗に反するホームページへリンクすることも同様な措置の対象とします。

(雑則)

9. その他、ホームページの運用について必要な事項は専門委員会が定めます。

資料

平成11年度京都大学職員研修実施計画

名 称	実 施 時 期	対 象	予定人員	場 所	備 考
新 採 用 職 員 研 修	4 / 12 ~ 4 / 15 (4 日間)	新採用職員(他機関を含む)	73	国立若狭湾少年自然の家	4 / 12 附属図書館
主 任 研 修	9 / 7 ~ 9 / 10 (4 日間)	主任 (他機関を含む)	60	国立曽爾少年自然の家	9 / 7 楽友会館
係 長 研 修	11 / 9 ~ 11 / 12 (4 日間)	係長 (他機関を含む)	40	国立若狭湾少年自然の家	11 / 9 楽友会館
技術職員研修 (第22回)	7 / 14 ~ 7 / 16 (3 日間)	行一 教室系技術職員(他機関を含む)	50	京大会館ほか	
〃 (第23回)	2 / 23 ~ 2 / 25 (3 日間)	〃	50	〃	
語学研修(英語・初級コース)	5 / 7 ~ 7 / 13 (55時間)	事務系・技術系職員	9	工学部国際交流室	週 2 回午後 1 回 3 時間
〃 (英語・中級コース)	10 / 5 ~ 12 / 14 (55時間)	事務職員	8	〃	週 2 回午前 1 回 3 時間
〃 (中国語・初級コース)	未定 (後期)	〃	8	〃	

課 長 補 佐 級 研 修	未定 (1 日間)	課長補佐 事務長補佐 専門員	30	学外施設	
新 採 用 職 員 研 修 (Ⅱ)	4 / 19 ~ 4 / 20 (2 日間)	新採用職員	47	附属図書館調査室	
初任者教育研修 (前期)	5 / 17 ~ 9 / 29 (18回)	新採用職員	22	附属図書館調査室ほか	毎週水曜日午後
初任者教育研修 (後期)	10 / 13 ~ 2 / 23 (18回)	〃	12	〃	〃
実 務 講 習 会 (庶務系)	12月初旬 (4 日間)	実務担当職員	延べ300	京大会館	
〃 (経理系)	10月中旬 (4 日間)	〃	延べ200	〃	
〃 (教務系)	未定 (2 日間)	〃	延べ 80	〃	
パ ソ コ ン A 研 修	未定(年度内 1 回 2 日間)	課長(事務長)補佐 専門員以上の事務職員	22	附属図書館調査室	
パ ソ コ ン B 研 修	未定(年度内 3 回各 3 日間)	係長・専門職員以下の事務職員	各22	〃	

公開講座

工 学 部 公 開 講 座
「私たちのくらしと工学」
安全と安心

工学部では来る6月26日、7月3日の各土曜日に、広く一般市民を対象とする公開講座を、下記のとおり開催します。

記

6月26日(土)

人生を最期まで歩みきるために 高齢社会の住まいとまちづくり
くらしの中の数理教 授 外 山 義
教 授 茨 木 俊 秀

7月3日(土)

化学物質による水質汚染
地球のオゾン層を作ったり壊したりする大気化学反応教 授 松 井 三 郎
教 授 川 崎 昌 博

時 間：午後1時30分～4時30分

会 場：京都市左京区吉田本町

京都大学工学部 物理系校舎(自家用車でのご来場はご遠慮ください。)

定 員：150名

受 講 料：4,500円(テキスト代を含め、全講義を通しての受講料で消費税を含みます。)

申込方法：現金書留または受講料直接持参によりお申し込みください。

現金書留の場合は以下のものを同封してください。

1. 受講料
2. 住所、氏名、年齢、職業、電話番号を記した用紙
(1人につき1枚記入)
3. 返信用封筒

(宛名、郵便番号を記し、80円切手を貼ってください。受講証、領収書、会場案内図をお送りします。)

申込期間：5月31日(月)～6月24日(木)

持参の場合の受付期間：月曜日から金曜日 午前10時～午後3時(正午～午後1時を除く)

テキストは当日会場受付でお渡しします。

本講座は「京の府民大学」対象講座です。

申 込 先 〒606 - 8501 京都市左京区吉田本町

京都大学工学部等総務課庶務掛 公開講座係(工学部8号館1階西側)

電話：075 - 753 - 5000・5005

理学研究科数学教室公開講座 「現代数学展望」

本数学教室では、以下の要領で公開講座を開催します。興味をお持ちの方はお申し込みください。

1. 趣 旨 数学の近年の発展は著しく、数理科学、技術との関係も深まり、数学教育にも大きな影響を与えています。この情勢に鑑み、数学教育関係者をはじめ現代数学に興味のある大学生、高校生に対して、数学の最近の発展についての展望を与えるために本講座を開講します。
聴講者は、ある程度の数学の素養のある方が望ましいが、講義ではその内容を理解するために必要な基礎的なことについても解説します。
2. 期 間 7月21日（水）～7月23日（金）
3. 時 間 各 日 午前10時～午後5時
4. 場 所 京都大学理学研究科数学教室第3講義室（1階南側）
5. 応募資格 数学教育関係者及び現代数学に興味のある高校生以上の方
6. 定 員 50名（定員を超過した場合は抽選）
7. 受講料 7,500円（講座開催初日に受付へ納めてください）
8. 申込方法
手 続 官製往復ハガキに次の事項を明記してください。（申込は1名につき1枚）
①氏名 ②住所・電話番号 ③年齢・性別 ④勤務先又は学校名 ⑤受講目的
（郵送先）〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学理学研究科数学教室「公開講座」係
返信ハガキにも住所・氏名を記入してください。
期 間 6月1日（火）～6月30日（水）

講 師 及 び 内 容

1. 群の作用と解析学 教 授 平 井 武
群（group）の概念は、現代数学において基本的である。
群とは何か？ どのように数学の各分野に現れてくるのか？
このことを、平易に説明するために「群が作用している」という状況をいろいろ具体例を挙げて述べます。
特に、群の作用と解析学との自然なつながりについて出来るだけ分かり易く解説します。
2. 長さが最短の線で二点を結ぶ 助教授 中 島 啓
直線は、平面上の二点を結ぶ長さが最短の線であるという特徴づけを持ちます。
この講義では、これを一般化した問題、例えば曲面（より一般に多様体）上の二点のときはどうか、面積最小の面は何か、といったことについて紹介します。
3. ゼータ関数の整数論 助教授 池 田 保
ゼータ関数は、素数の分布理論との関係で19世紀から詳しく研究されるようになりました。
また、一方では、ゼータ関数に関連した未解決の問題も数多く残されていて、特にリーマン予想は、数学最大の難問ともいわれています。
この講義では、ゼータ関数と関連したいくつかの話題を選んでお話ししたいと思います。

数理解析研究所数学入門公開講座

本研究所では、下記の要領で公開講座を開催いたしますので、興味のある方はお申込みください。

記

1. 趣 旨 数学はあらゆる科学の基礎をなすものです。今回の公開講座では、社会人、中・高校教師、学生等ある程度数学的素養のある人を対象に、専門的題材をわかりやすく解説しようとするものです。
2. 期 間 8月2日(月)～8月6日(金)
3. 時 間 各 日 午前10時30分～午後4時
4. 場 所 京都大学数理解析研究所 4階大講演室
5. 定 員 120名(先着順)
6. 受 講 料 7,500円 (テキスト代を含め全講義を通しての受講料で消費税を含みます。)
(受講決定通知後に受講料を納めてください。)
7. 申込方法
 - (1) 期 限 7月2日(金)午後5時(必着)
 - (2) 手 続 官製往復ハガキまたはFAX(1名につき1枚限り、複数枚の応募は無効)に
①氏名 ②住所(電話番号も記入のこと) ③年齢 ④職業(大学 回生,
高校数学担当教員,主婦など) ⑤申込みの動機
を明記したうえ下記あてにお申込みください。なお、返信ハガキは採否の通知に用います
から、必ず郵便番号・住所・氏名を記入してください。

〒606 - 8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学数理解析研究所「数学入門公開講座」係

電 話 (075) 753 - 7202 F A X (075) 753 - 7272

講 師 及 び 内 容

1. 多項式の解の近似がとりもつ数論と幾何の関係(6時間15分) 助教授 望 月 新 一
多項式の有理数解の研究は、歴史が長いだけに、様々なアプローチを産み出していますが、20世紀の後半に開発され、現在では数々の輝かしい成果を挙げているアプローチとして、現代数論幾何があります。本講義の目標は、その現代数論幾何の世界を紹介することにあります。現代数論幾何の基本は、標語的にいえば、多項式の解の近似にあります。つまり、有理数というものは、整数論の対象としては構造が複雑すぎるため、数論的にはより単純な構造をした実数や複素数のような数で近似することによって多項式の有理数解を調べるのです。このような近似解のなす集合は、有理数解のなす集合と違い、「滑らかな物質」で出来た幾何的な対象をなしていて、その対象の幾何的性質が、有理数解の性質に大きく影響することが知られています。
2. 計算幾何学入門(6時間15分) 助教授 田 村 明 久
平面上に与えられた有限個の点の集合に対して、これを含む最小の凸多角形を求める問題を(2次元)凸包問題とよびます。計算幾何学とは、このような幾何的な問題を解くアルゴリズム(解法)を研究する計算機科学の一分野です。
本講義では、凸包問題のほかに勢力圏のモデルとして利用されるボロノイ図など、計算幾何学において基礎的な問題とそれらに対するアルゴリズムを紹介します。また、アルゴリズムの効率性の評価についてもふれます。
3. 微積分をつづいて多様体が見える(6時間15分) 教 授 宮 岡 洋 一
「多様体」は現代数学を理解する上で鍵となる概念です。
数学のなかでも最も古い伝統をもつ幾何学は、三次元空間という入れ物にはいつている図形という素朴な直感から出発したわけですが、150年ほど前のこと、リーマンは、必ずしも入れ物を必要とせず、いくらかでも高い次元をもてる、多様体の概念に到達しました。この概念は解析学を複雑な図形のなかで自由に展開することを可能とし、その結果として宇宙全体の幾何構造といったものまで考察することができるようになったのです。
本講義では、多様体の豊かな世界への入門として、積分を通じて解析(微分形式)と幾何(コホモロジー)とがかわりあう、その様子に焦点をしばって解説したいと思います。

農学研究科附属演習林公開講座

森のしくみと働き

芦生演習林への招待

農学研究科附属演習林では、芦生演習林において、森林に関する理解を深めていただく機会のひとつとして、一般の方々を対象とした講座を開講します。

芦生演習林の自然とそのしくみや森林を利用する方法等を講義し、解説したいと考えています。多数の方々の参加を歓迎いたします。

プ ロ グ ラ ム

8月4日(水) 芦生の自然について(講義)

開講挨拶

演習林長 渡 辺 弘 之

芦生演習林の概要

教 授 竹 内 典 之

森林昆虫の樹上と地表の往復

教 授 渡 辺 弘 之

芦生の森林

助 教 授 安 藤 信

芦生の樹木識別入門

技 官 登 尾 久 嗣

8月5日(木) 天然林内での講義並びに実習(各班5人,10班の編成で行います)

教 授 竹 内 典 之

講 師 西 村 和 雄

教 授 大 畠 誠 一

講 師 中 島 皇

助 教 授 安 藤 信

助 手 寄 元 道 徳

助 教 授 柴 田 昌 三

助 手 濱 本 な お

助 教 授 芝 正 己

助 手 長谷川 尚 史

助 手 中 西 麻 美

8月6日(金) 森林と人間の関わり(講義)

水,森そして環境

講 師 中 島 皇

森林と微生物

助 教 授 二 井 一 禎

日本の森林と森林問題

教 授 大 畠 誠 一

閉講挨拶

教 授 竹 内 典 之

日 程 8月4日(水)午後1時~8月6日(金)正午(2泊3日)

会 場 京都大学大学院農学研究科附属演習林芦生演習林(京都府北桑田郡美山町芦生)

交通手段 自家用車または路線バス

定 員 50名(応募者多数の場合は抽選)

受 講 料 7,500円(但し,宿泊費,交通費などは別途)

申込方法 官製往復ハガキ(1名につき1枚)に住所,氏名,年齢,職業と連絡先(電話番号・FAX番号),交通手段(自家用車または路線バス利用)を記入し,返信用ハガキに郵便番号,住所,氏名を記入のうえ6月30日(水)《必着》までにお申込みください。

申 込 先 〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院農学研究科附属演習林庶務掛

TEL (075) 753-6410

そ の 他 詳細は申込先にお尋ねください。

話題

クラブ紹介

アーチェリー(洋弓)部

人間が、大自然の中で生きて行くための狩猟の道具として発明された弓矢は、「エネルギーを貯めておいて、それを瞬間的に用いることにより大きな能力を発揮できるようにした人類史上初めてのテクノロジー革命」(創部30周年記念誌より)であったともいえるが、人間を殺戮する凶器ともなった。16世紀の鉄砲の発達により武器としての価値は衰退し、イギリスを中心としてスポーツとしての道を歩み始めたのが、近代アーチェリー(Archery)の始まりといわれている。アメリカ大陸にも普及し、今や世界で600万人以上の愛好者を持つ国際スポーツの一つとなっている。

日本では、1939年(昭和14年)に菅原重義氏がアメリカより持ち帰り広めたといわれ、競技としての歴史は浅く、オリンピックでこの競技に日本が初めて参加したのは1971年(昭和46年)のミュンヘン大会のことであり、国体の正式種目として実施されたのも1980年(昭和55年)の栃木国体からであった。

京大アーチェリー部は、現在のアーチェリー協会が結成された翌年の1967年(昭和42年)に創部され、現在、川端近衛の京都織物跡構内にある50mのアーチェリー場で、全日本学生選手権大会での優勝を目

指して日々練習に励んでおり、今年で「満32歳」となった。

部員数は60名を超え、女子部員が多いのも特徴の一つである。また、何よりも自由の気風と部員の自主性を尊重し、アットホームなところである。

競技には、屋外で90m～30mの距離からの的を射るアウトドアターゲットアーチェリー、屋内で18mの距離からの的を射るインドアターゲットアーチェリー、野山に出かけの的をねらうフィールドアーチェリー、スキーをしながら的をねらうスキーアーチェリーなどの種目があり、大学では、主にアウトドアターゲットアーチェリーを行っている。

アーチェリーは、大学入学後から始める人がほとんどで、それだけに練習を積み重ねることで、優秀な成績をあげることができる。

国立七大学総合体育大会では団体優勝の常連校であり、3部に分かれている関西学生リーグでも、男女とも1部リーグ(12大学)に属している。また、個人戦においても、昨年度の関西学生フィールドアーチェリー個人選手権では、法学部3回生の男子部員が優勝するなど、輝かしい成績を収めており、今後の活躍が期待されている。

